

S S T L

NO. 72 2021. 4. 26

職場参加ニュース

2021年度定期総会
・記念シンポジウム

コロナ禍で見た社会の壁 どこからこえるか？

と き:6月20日(日) 13:15~定期総会 14:00~記念シンポジウム

ところ:越谷市中央市民会館 5F 第4, 5, 6会議室

(コロナ感染予防のため休館等の場合は、別の形で行います)

記念シンポジウム(パネルディスカッション)

パネリスト:

山田奈緒さん(毎日新聞東京本社記者)

日吉孝子さん(当会事務局、障害者雇用OG)

伝田ひろみさん(さいたま市議・障害者の自立と
政治参加ネットワーク代表)

羽田亮介さん(埼玉高教組書記次長共育共
生部・特別支援学校教員)

コメンテーター:越谷市障害福祉課、人事課(共に依頼予定)

コーディネーター:朝日雅也さん(埼玉県立大学教員)

手話通訳:依頼中

シンポジウム参加費 / 会員 500 円、非会員700円(資料代)

2021年度定期総会

シンポジウムに先立って、同日同じ会場で13:15
から開催します。受付は13:00からです。

2020年度事業報告、決算報告、監査報告

2021年度事業計画案、予算案 を審議します。



すべてを読み上げることはせ
ず、障害者スタッフ等から活
動や生活の近況報告や予定な
アルに共有します。

どこから越える？ コロナ禍で見た社会の障壁^{かべ}

NPO法人障害者の職場参加をすすめる会 2021年度総会記念シンポジウム

趣 旨

□ アンケートが示す不安、孤立、軋轢と見えない景色

コロナ禍の下での暮らしが長期化する中、当会は障害当事者向けの情報誌「世一緒NOW」で読者アンケートを行い回収中です。

読者はさまざまな場(職場、施設、在宅)に分散していますが、十分な相談抜きでの感染対策、自宅待機や外出自粛、さらにワクチン接種等を強いられる中で不安と孤立感、身近かでの軋轢が募っていることが伝わってきます。

これらは障害のない人々にも共通する状況ですが、加えて近年、障害のある人々への雇用・就労、福祉、そして教育にわたる特別な支援が整ってきた半面で、その支援施策を介して障害の有無・種別とその状況ごとに生きる世界が細分化され、張り巡らされた障壁(かべ)によって周りの景色が見えなくなっているなあという実感をあらためて抱きます。

□ 公務・民間の雇用実態、そして障害福祉サービス市場

昨年度の総会記念シンポジウムでは、省庁、自治体で露呈された障害者雇用の水増し問題という、障害者雇用促進法そのものの根拠が覆されかねない危機について、多角的に考え合いました。

とはいえ、これまでの省庁・自治体の障害者雇用のありかたを大きく変えようとする国の指針や手引きが出されたにもかかわらず、各省庁や全国の自治体で策定され、公表された限りの計画を見る限りでは、ほとんど何も変わっていないところも多い残念な状況が続いています。

いっぽう民間に目を転ずれば、障害者雇用率代行ビジネスが急成長を遂げていることに示されるように、さまざまな障害者が差別なく共に働くという雇用促進法の建前は空洞化し、教育や福祉分野も共に生きる地域を支えるよりも人材ビジネス等の市場競争の草刈り場になり、人を分け隔てる場が変わってゆく状況が深まっています。

このほど、厚労省労働政策審議会障害者雇用分科会において、「障害者の労働市場における就労継続支援A型事業所のプレゼンス」が初めて具体的に明らかにされました。A型の割合が大きい都道府県において実雇用率が高い傾向があり、障害者専用求人に占めるA型事業所の割合は24.2%になっており、一番高い沖縄県では5割を超えているというのです。同分科会では、地域での障害者雇用を支えていた中小

企業を、A型の増加が圧迫しているのではないかという見解も示されました。A型は雇用率算定から外すべきとの議論まで出されました。

ただ、現在A型問題としてクローズアップされていることは、少しずつ形を変えながら、B型、生活介護、就労移行、グループホームなど、営利企業の大量参入により市場競争が過熱の一途をたどる障害者福祉サービス全体に及んでいます。「事業所が増えることにより、サービスの選択の幅が広がり、自分らしい暮らしが可能になる」という建前とは裏腹に、前にもまして人々が個々の状況に応じて事業所から事業所へ、転々と受け渡されてゆく傾向が強まっているのではないのでしょうか。コロナ禍でのグループホームのクラスター発生も、そのいっぽうでの自宅待機による家族も含めた生活崩壊も、こうした閉ざされた日常をさらけ出したにすぎません。

□ どこから越える？この障壁(かべ)を

コロナ禍で明らかになった地域内の分離・閉塞状況をどう越えてゆけるのか。これまでの法制度自体が問題視されている現在、抜本的な対策はすぐには見えてきません。

ただ、当会が長年にわたり積み重ねてきた「職場参加」すなわち福祉、医療の利用者もさまざまな手立てを用いて地域の職場に入ってゆくこと、地域の職場がそうした人々を受け入れ、つきあいながら変わってゆくことの大切さを改めて実感します。同様に、「特別な支援」は不十分な地域の保育所、幼稚園、学校で、さまざまな障害のある子が他の子どもたちと一緒に育ち、学ぶことを積み重ねてゆくことも。

これらは当会独自の考えではなく、実は地域のあちこちでいっぱい行われているにもかかわらず、十分な評価がなされず、そのための支援策は乏しいままになっているのが現状です。しかし、こうしたいわば原初的な「地域共生」をバックアップすることにより、これまでの支援施策もリノベーションの展望を組み立ててゆけるのではないのでしょうか。

そのうえで、同じくらい大事なことは、共に生きられない現在を、一人一人が自分なりの表現で発信し、そのかけらをつなげてゆくこと。みんなの共同作業で、地域のイメージを浮かび上がらせてゆくことから再出発する必要を痛感します。

一緒に考えましょう。歩き出しましょう。

パネリストご紹介

ソーシャルファームと位置付けて協定を結んだことについては疑問を表明しています。



山田奈緒さん

毎日新聞東京本社の記者で、障害者雇用代行ビジネスの存在を社会的にクローズアップした記事で知られています。ただ、彼女が問うているのは、そのことだけでな

く、障害者に職場でじかにつきあわず、特別な場を設けて「数合わせ」で事足りりとしている大・中企業、公務部門総体の状況です。また、そんな職場から切り捨てられたり、拒否された人々の受け皿としての福祉施設が、地域・職場と切り離された活動を、ニーズや適性に合った生き方として固定化してしまっていることも含めてです。

障害のあるお姉さんと一緒に暮らしてきた体験から発せられる山田さんの言葉は、告発にとどまらない多くの示唆を含んでいると感じます。



伝田ひろみさん

車椅子のさいたま市議として、障害者の政治参加と自立をすすめるネットワークの代表として知られます。彼女が2003年からずっと職場

としてきたさいたま市議会に彼女の席だけでなく議場の中を車いすで動ける1本のスロープが設置されるまで、15年かかったといいます。

代表だった OMIYYA ぱりあフリー研究会の合言葉は「一緒にいることから始めよう」。まさに一緒にい続けることなしには変わりませんでした。

その意味で、同市が自力通勤や介助者なし職務遂行を撤廃したことや民間での介助付き就労を支援していることは大いに評価するとともに、半面で要介助の障害者が市の職場に入って来る際の対応は考えていないこと、また雇用代行業を市が



日吉孝子さん

日吉さんは、養護学校小学部を卒え地元の中学校、高校を経て、大企業に就職しました。その70年代末の就労と後に結婚・子育てを一段落して就職した90年

代とで、大きな時代の変化を感じさせられました。あからさまな差別を伴いながら受け入れられ、せめぎあいながら職場に居座っていった時代と、予め障害の状況や能力・適性を細かく値踏みされ、多様な就労・福祉の場に分けられてゆく時代と。時代がさらに深まる中、分断を潜り抜けて人々が出会い、一緒に動く機会創出をさまざまに試みてきました。



羽田亮介さん

羽田さんは、埼玉高教組書記次長 共育共生部。共育共生部は特別支援学校の教職員たち。つまり特別な場として分け隔てられて育ち生きることをよとするのでなく、そこを足場として

他の子どもや大人と地域で一緒に生きることをめざそうという理念で活動する組合に長年所属しています。

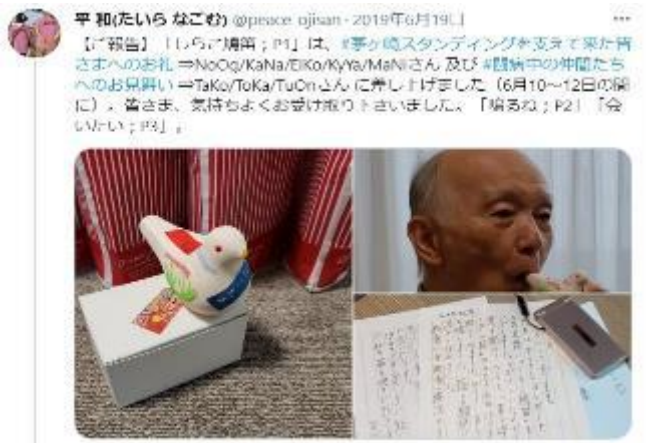
しかし、日吉さんの経験が示す通り、雇用、福祉制度が細かく整備され、それに対応して細かい特別支援教育の場が整備される中、子どもたちは前にもまして細かく分け隔てられています。

だからこそ、羽田さんたちの存在はきわめて重要な位置にあるといえるでしょう。

羽田さんには、その学校現場の状況と併せ、子どもたち、親たちの悩み、そこにつきあい続けてきた立場から地域の他の人々への発信をしていたきたいと思っています。

職場・地域ひろがりつうしん

●しらこぼと笛が縁、平さん逝く



茅ヶ崎駅前「九の日スタンディング」を続けてきたリーダー平 和(たいらなごむ)さんが1月15日ご逝去。享年78歳。茅ヶ崎から越谷市に引っ越した有竹さんが贈られた世一緒スタッフ絵付けのしらこぼと笛「輝け!九条」バージョンをご自身のツイッターでPRしていただいた。合掌。

●Love Shirakobato に有力新人



職場参加ビューロー世一緒で毎金午後に行われているLove Shirakobato プロジェクトに、就労移行支援「世一緒」通所中の笹原さんが3月から参加。このところ、笛の絵付けは一段落し、地域に情報収集とPRを兼ねて出かけることが多い中、写真のようにリフトの操作もマスターして、活躍している。

●「働く広場」の取材で朝日さんら



高障支援機構の「働く広場」の「編集委員とゆく」ページの取材で4月21日越谷市を訪問した県立大・朝日さん一行が、すいごごカフェに立ち寄り。同大卒で現在求職中の須田さんも一緒に。

●春から夏へ水上公園花壇模様替え中



連休明けの5月7日、しらこぼと公園のパンジー、ビオラを抜く作業を開始。盲ろうで車いすの橋本さんが今年も参加。熟練の技を発揮していた。

2020年度及び2021年度会費、寄付、協力会費を納入いただきました(五十音順、敬称略)

【2020年度会費】

会沢完、青木繁明、阿久津康仁、朝日雅也、石田貴美子、伊藤峰子、上野豪志、内野かず子、大武昭、大塚眞盛、沖山稚子、尾谷英一、黄川田仁志、癸生川新一、越野操、佐藤恵美子、佐藤秀一、澤則雄、清水泉、清水泰代、鈴木照和、関一幸、荘子敏一、竹迫和子、田島玄太郎、巽孝子、巽優子、田中利昌、谷崎恵子、津崎悦子、辻浩司、辻彩子、友野由紀恵、並木理、賛田俊之、西陰勲、及木聡、長谷川顕、幡本洋子、原和久、原田真弓、樋上秀、日吉孝子、正木敬徳、前田直哉、松田和子、松田典子、松山美幸、水谷淳子、森田譲二、谷塚祥子、山川百合子、山崎かおる、山崎茂、山崎泰子、山崎有子、山下浩志、山田裕子、山本正乃、湯谷百合子、吉田久美子、かがし座、くらしセンターべしみ

【2021年度会費】石田貴美子、沖山稚子、佐々木洋子、佐藤恵美子

【2020年度寄付】

伊藤勲、上野豪志、大塚眞盛、大家けい子、島根淑江、荘子敏一、鈴木照和、関一幸、津崎悦子、直井利雪、新相勝己、賛田俊之、西陰勲、増田真吾、松田和子、水谷淳子、富沢一枝、山下浩志

【運営協力費】

朝日雅也、田島玄太郎、賛田俊之

第54回 共に働くまちを拓くべんきょう会報告(2.5 中央市民会館で開催)



「労働者協同組合法の成立」でなにができるように？ **報告**

・話し手 田嶋 康利さん(日本労働者協同組合(ワーカーズコープ)連合会・専務理事)

飯島さんの司会で



今回のべんきょう会の司会を務めたのは当会の運営委員の飯島さん(インターネット事業団)。かつて長年労働関連の編集者として働き、かつてワーカーズコープと縁の深い協同総合研究所にも関わった。飯島さんからの投げかけもあって、今回のべんきょう会を行うことになった。

働く人たちが出資し、経営、運営にも責任を持つ協同労働という働き方は、どのようなことなのか。当会のようなNPO法人やワーカーズコレクティブなどが用いている企業組合、さらには一般社団法人、株式会社、生協等とどうちがうのか。

田嶋さんのお話

私たちは40年以上の試行錯誤の歴史を経て、「協同労働」という考えに達した。働く者や市民が出資して経営に参加、話し合いを進め、生活と地域に必要とされる仕事を、3つの協同(働く者同士の協同、利用者との協同、地域との協同)を通して、よい仕事へと高め、一人一人の成長・発達をめざすことだ、

今回の法の最大の特徴は、労働者協同組合が他の協同組合、企業組合やNPO法人などと本質的に異なる点として、①組合員が出資し、②それぞれの意見を反映して組合の事業が行われ、③組合員自らが事業に従事の3つの原則に従う協同組合組織として位置付けられたこと。

またそれにより組合を通じて、多様な就労機会の創

出と地域における多様な需要に応じた事業の実施を促進し、もって持続可能で活力ある地域社会の実現に資することを究極目的とすると明記している。

「人新世の資本論」の著者の斎藤幸平さんは「ワーカーズコープは、生産領域そのものをコモン(社会の富である共有財産)にすることで、経済を民主化する試み」だと評価している。

危機の時代に法制化された労働者協同組合が歴史的役割を果たしてゆけるかが私たちに問われている。

コロナ危機の下で失業や孤立、社会的に排除された人々の就労を通じた社会参加を促進する担い手として労働者協同組合の役割を重視し、育成・支援の充実と、地域づくりに資する雇用・就労政策を国・自治体に求める。

北本市では仮称・コミュニティ事業・就労支援条例へ向けた動きが始まっている。広島市では、2014年から協同労働プラットフォーム事業が実施され、21団体の組織を生み出し、高齢期の就労で成果を上げている。

三郷の青いそら・浅草さんから(動画で)



私たちワーカーズコレクティブとしても、ワーカーズコープの皆さんと長年活動してきた成果が実を結び、うれしく思う。一方で、私たちを含め、地域のニーズに応じていく事業は収

益性が上がらず、この法律に定められる労働契約を結ぶというのは、現状ではハードルが高すぎる事業所も少なくない。それに対して、行政

の優先発注とか、継続性を保ってゆけるような支援を具体的に作って行くことで、置き去りにされている事業所を支援し、地域の活性化をさらに進められるよう、新しい法律や条例が必要と思っている。

大阪・豊能障害者労働センターから(文章で)

設立以来、国や府の制度をとらず、箕面市独自の障害者事業所制度の下で活動してきたが、障害者自身が経営を担う事業所という実態にあった法人格がみつからなかった。労働者協同組合の考え方に会って、私たちの働き方と重なると感じた。福祉制度が整った現在、障害者団体の社会への発信力が弱まり、自分たちの中で完結している傾向を感じる。今こそ一人ひとりが主役になれる「共に」働く形を、私たち自身で作っていく必要があると思う。



辻県議から 昨年12月議会で労働者協同組合法をどのように推進するか、私の質問に対して知事が答弁した。知事は、国会議員時代に法制化に取り組んできたこともあり、積極的だ。県民への説明会、組合設立に関する相談への対応のほか、

庁内横断的な会議を立ち上げるとともに市町村向けに研修会も実施する。広島市などの先進事例についても情報収集し、今後の県の支援策について検討すると答弁した。この知事答弁を活かしながら、地域で法を活かせるよう取り組んでいきたい。

障害者との関係で田嶋さんからコメント

今回の法律では就労継続支援の利用者については組合員になることはできるが、当分の間、組合員構成の3/4従事要件には算定されないこととされた。障害者団体からは合理的配慮との見解がある一方で、障害のある人への差別につながる懸念の声が出され、議論になっている。私たちは、この条項を評価している。A型の制度を使わずに障害のある人が働く場合は、同じように組合員となって就労するわけだが、A型の制度を利用する場合は利用者としての契約を結ばなければならないが、そこで働きながら利用者としてでなく共に働く労働者協同組合の働き方に共鳴・納得して、自発的意思で組合員になってゆくのが実態だという。利用者自身が労働者協同組合と出会い、その働き方にふれる機会を狭めないためにも、この3/4条件を設けておく意味があると考えている。

山田越谷市議からの質問と田嶋さんの答え

越谷で「こどもかふえ食堂ぼらむの家」を仲間で作っているが、コロナ禍で大学生ボランティアと一緒に学習支援も行うようになり、これって社会に必要なことだよと話している、ボランティアとしてだけでなく仕事にできたらいいと思うが、そういう例があれば教えてほしい。

この山田市議の質問に対して、田嶋さんから主婦たちが仕事おこしに取り組んだ例を紹介。

(これがきっかけで、後日、ワーカーズコープ埼玉の人々がこどもかふえ食堂ぼらむの家を訪問、懇談。)

センター事業団から



最後に、日本労働者協同組合連合会センター事業団田中理事長やセンター事業団埼玉からも一言ずつお話をいただき、べんきょう会を終えた。

埼玉協同労働推進ネットワーク準備会(第1回)開かれる



2月16日、上記ネットワーク準備会がZOOM開催された。田嶋さんのfacebookによれば、県内5つのエリアで学習会・フォーラムを開催していくことや、自治体での政策化等について話し合われた。

わらじの会から当会理事も務めていただいている吉田弘一さんが参加(右上)し、報告をいただいた。

吉田さんは、「協同労働の法制化は勿論良い事だと感じます。ただこの流れはトップダウンではたぶん難しいだろうとも思っています。『わら細工』は外から見ればかなり大きな協同労働のベースだと思いますが、そうしたものを点在させ、点描を濃くしていくように広げていくのが有効だろうと考えています。」と述べている。

吉田さんが指しているのは、べんきょう会で浅草さんが述べたワーカーズコレクティブの現場も含めて、雇用契約のハードルは越えられずとも、実態としてさまざまな障害や困難を有しながら地域で共に働いている場があちこちにあり、そうした法の対象外の「協同労働」をつなげていくことも重要な課題だということだろう。

当会が障害者雇用・就労に限定せず、それらを含みながらより広いイメージで「職場参加」としているのも、「障害者」が「参加」してゆくことで、その「職場」の他の人々もあらためて「職場」のありかたを見直し共に「参加」していく、すなわちそこを「協同労働」の場に変えて行くという意味を込めている。

さらに今後の取組に関心をもっていきたい。

職場参加をすすめる会

2021.5.1~7.31カレンダー

(2021年4月28日改訂)

2021年5月		2021年6月		2021年7月	
日	日中行事	日	日中行事	日	日中行事
1日	土	1日	火	1日	木
2日	日	2日	水	2日	金
3日	月	3日	木	3日	土
4日	火	4日	金	4日	日
5日	水	5日	土	5日	月
6日	木	6日	日	6日	火
7日	金	7日	月	7日	水
8日	土	8日	火	8日	木
9日	日	9日	水	9日	金
10日	月	10日	木	10日	土
11日	火	11日	金	11日	日
12日	水	12日	土	12日	月
13日	木	13日	日	13日	火
14日	金	14日	月	14日	水
15日	土	15日	火	15日	木
16日	日	16日	水	16日	金
17日	月	17日	木	17日	土
18日	火	18日	金	18日	日
19日	水	19日	土	19日	月
20日	木	20日	日	20日	火
21日	金	21日	月	21日	水
22日	土	22日	火	22日	木
23日	日	23日	水	23日	金
24日	月	24日	木	24日	土
25日	火	25日	金	25日	日
26日	水	26日	土	26日	月
27日	木	27日	日	27日	火
28日	金	28日	月	28日	水
29日	土	29日	火	29日	木
30日	日	30日	水	30日	金
31日	月	30日	水	31日	土

のち、リハビリティを兼ねた1~3時間内の屋外のアルバイトです。グループでやるので、初めての方でも大丈夫です。は、素焼きの鳩笛の絵付けと、その普及・販売のための研修や営業活動です。は、障害のある人や他の人々が日替わりゲストとなって、暮らしや仕事を語り継ぎます。あなたもどうぞ！

○茶色の字のスケジュールは、主に連携団体の主催行事で、一緒に参加できるものの紹介です。○ほかのスケジュールは、主に小グループでの講座やミーティングです。詳しい内容についてはお問い合わせください。

すいごごカフェ 5/12~6/9 1時半のゲスト



5月12日(水)

清水 泉さん

越谷市議会議員

協同組合と自治を語る

越谷市民ネットワークから市議1年生だが、生活クラブ埼玉理事長6年間等積み重ねた経験は豊か。他県、他組織や欧州の協同組合の実情にもふれ、めざす自治のイメージを

5月19(水)

糸賀 延江さん

地域福祉一家の母

美賀子にナイスピッチ

高校漫研で活躍し専門学校で夢膨らませていた娘美賀子が脳血管障害で夢破れるも障害者自立生活運動にめざめ児童文学新人賞も得て青春を駆け抜けて逝ったあの時母は何を

5月26日(水)

未 定

26日はせんげん台世一緒

未 定この日はせんげん台西口イオン並びの就労移行支援「世一緒」で行ないます。(他の日はすべて東越谷ハローワーク向かいの職場参加ビューロー世一緒で開催)

6月2日(水)

愛沢 新一さん

べしみ通所者

どこから来てどこへ

越谷で、松伏で、ひたすら道を歩く姿は、沢山の人々の無意識の底に刻まれている。超高速、リモート時代に対峙して踏跡を付ける。この旅はどこから始まりどこへ向かうか

6月9日(水)

平野 栄子さん

わらじの会会計

102才母と暮らして

わらじの会発足時からのメンバー。元保健師。もう20年間続けてきた長寿の母カヨさんとの暮らしのエピソードを。またじかに見聞きしてきた母の華麗かつ壮烈な人生を語る。

すいごごカフェ/Lunch Café どっこいしょ

すいごごカフェ(第1、2、4、5水曜)もLunch Café どっこいしょ(第3水曜)も、NPO法人障害者の職場参加をすすめる会が主催する誰でも参加できるひろばです。Lunch Caféは12:00からキッチンとまとのカレー(コーヒー付き300円)が食べられます(要予約)。どの日も13:30~15:00 ゲストトークがあります。街で生きる障害のある人ない人、いろんな人が語ります。気軽にお立ちより下さい。人に歴史あり、街にドラマあり。 048-964-1819(世一緒)

すいごご

Café News Flash



[2020年12月16日

関啓子さん]

長年教師をしてきたが、理解は知識じゃなくて生活の共有からできるものだなと思う。

「いろいろな子がいて当たり前」

でいいのに、なんでそれが今まかり通らないんだろう。「障害児」というのは周りが見ているカテゴリーなだけであって、「私は障害児」なんて思っている子はいない。障害があるない関係なく、全然問題ないという子はいないし、手が出ちゃう子や、お金をすっちゃう子とかとつきあってると、障害を持ってるからってなんなのさって思う。子供は子供ながらに育っていく。あるがままを受け止めて、なんとかやるよねって子供達を信じる、そんな教師生活を送ってきた。



[2021年1月13日

島根淑江さん]

横須賀生まれ。小学校5年生からは単身赴任の父以外は茨城に引っ越し、お百姓をしていた。大学を出てから国語教師になり、

優しい生徒に恵まれて楽しい教師生活を送った。結婚して越谷に住んで50年経つ。舅に家に火をつけられたり、怪我をして2年半前から杖生活になったり波乱万丈な人生だけど、足を一歩前に踏み出せば、次の楽しい目標に向かってとにかく歩けるじゃない？今は半身不随の生活ではあるけれども、趣味の書道や音楽をやりながら頑張っているところ。いろいろな方とお話ができるのが楽しくて、1年くらい前から世一緒に顔を出すようになりました。



[1月27日 岩淵鉄平さん]

埼玉県草加市でデザイン会社をやっている。家族には11歳、9歳、7歳の3人の子供がいる。長男が軽度の知的障害で、三男が中度の知的障害。最初は子ら

が障害を持ってることを受け入れられず逃げてしまった。今は、デザインを使って子供達に多様性の素晴らしさを伝えたくて、誰が何をやってもいいんだよというコンセプトで、にぎる動作ができれば比較的体が不自由な人もできる霧吹きを使ったプリントバッグなどを作るイベントを行っている。



[2月10日 西陰博子さん]

12年前に退職するまで、40年ずっと養護教諭の仕事をしてきた。日常的に頭が痛いとかお腹が痛いと言って保健室に来る子供たちは、実際にはいじめ

られてたり、家庭内でいろいろあったりとか、子供なりに悩んでいる場合がほとんどだった。今でも、学校に行っているであろう時間に外にいる子を見ると、保健室にすら行けてないんだなと、そういった子供と関わってあげられる人はいないのかなと心配になる。



[3月3日 阿久津和子さん]

息子の康仁はダウン症(昭和63年生まれ)。康仁が小さい頃にわらじの会と出会って、車椅子の人でもこんなに普通の市民として生きていけるんだって知っ

て親子でいろいろ出かけていくきっかけになった。わらじの夏合宿は常連。自分は介護福祉士、社会福祉士などの資格を取り、ヘルパーやケアマネなどの仕事を経て、現在はせんげん台世一緒に相談支援事業に従事している。今は月曜に康仁を送って金曜に迎えに行く形でバランスを取っている。コロナでどこにも出かけられないけど、いろいろ昔行った所を思い出してる。

思い出があるのって大事。踏ん張りどころか

すいごごカフェ

毎週水曜に、障害の有無に関係なく、いろんなゲストをお招きし、その人の人生経験や考えを聞く会を開いています。最後には質疑応答を交え、みんなで意見交換が行われます。どなたでも、ぜひ聞きにいらしてください♪

ブログ <https://yellow-room.at.webry.info/>

世一緒スタ、フ日記

一週間のくらしです

笹原 涼子

月よう日 世一緒終わってから本屋に寄った。

火よう日 ウッドデッキは寒かった。

水よう日 本を読んだ。

木よう日 お母さんと散歩した。

越谷とか。

かいじよをふやしました

友野由紀恵

わたしは、おおぶくろのしゃくやのいっけんのアパートにかいじよをいれながら15年ぐらいすんでいます。いっしゅうかんくらいまえですが、だいくのひとがきてくれて、ゆぶねとかべのたいるのところにくりてんをいれてもらうさぎようをしてもらったりしました。

いまのじぶんでんわへ、あしたまたきてくれるとのれんらくのでんわがかかってきました。さいきんあさのかいじよもはいつてもらっています。

どうゆび、にちようびのあさのかいじよは、さいたまけんりつ大学生にはいつてもらっています。きのう、ようふくのせいりせいとんを、



世一緒では、障害や病気その他の状況による働きづらさを、他の人々と共有し生きるために、世一緒に関わっている人たちを「スタツフ」と呼んでいます。サポーター(非常勤やボランティア)の支えを受けて、世一緒の当番(ピアサポート実習)や「語る会」、身近な地域で必要とされる仕事(花壇整備、除草、ポステイング)のグループワーク等もしています。元スタツフ等からの近況報告も紹介します。なお2018年4月からはせんげん台に就労移行支援事業所「世一緒」が開所しました。こちらは制度により定められた職員があり、通所2年の間に一般就労への支援サービスを提供する場となっています。当会は定められた支援ももちろん、自主事業の世一緒(越谷)と連携して、多様な就労やピアサポートも可能な展開をめざします。

会議に出たりしています

黒田 正巳

今日は市民ネットで、昔の日本のDVD見て、べんきようになりました。中みはうまく説明できません。

午後からきゆうにすごい雨になり、ひようもふり、雨がふると大変になり、外に出れないじようたいです。

今日は市民ネットで会議があり、いろいろ話があり、これからの事考えなきやと思いました。

ミーティングに出てみて

五十嵐 隆裕

ミーティングの課題は、一週間のできごとやコロナ対策、睡眠について話しました。

具体的に話すのが難しかったけど、人とのコミュニケーションを取るのがとても難しいと思えました。

やはり仕事はしたいです

野口 明香

おとしまで福祉施設で日勤ダブルと片一方の夜勤で仕事をやらせてもらっていましたが、さすがにトリプルでやらせてもらっていた頃は、体調崩れるのも早く、慣れない時間帯はタイムカードを押してやるどころではないと思ひ、体調崩したのも早かったため、夜勤の時間帯だけははずさせてもらひ、今は日勤のほうの仕事だけでやっています。

今は、休みが多くなったのもあって、ぽっかり穴が開いている感覚でしかたがないので、もう一つ何か仕事が見つけられればと思います。次の資格をめざして。

仕事に対してのアドバイス

水島 茂治

今生きる為に年金と生活保護を受けています。もう65才で仕事ができなくなりました。現在68才です。今体の中はポロポロです。

仕事のことですけど、出来る出来ないは別として、すなおにかならずあやまって下さい。そしてかならずへんじをして下さい。私からのアドバイスです。

たそがれ管理人の春

樋上 秀

たそがれもこの7月で5年目です。永六輔が亡くなった日にたそがれがはじまったもの。六輔が亡くなつてからももう5年になります。それでも今年には東日本大震災から10年、またこのコロナでますます永六輔作詞の「うえを向いて歩こう」、「みあげてごらん夜の星を」が多く歌われています。そんな5年目の春。

二〇二一年四月二六発行(毎月十二回 二と四と六と八の日) 通巻五〇四六号
一九九四年八月二十四日第三種郵便承認
発行人 埼玉県障害者団体定期刊行物協会 〒333-0851 川口市芝新町十五一九 アステール藤野1F